

幹事長日誌

(平成25年1月1日～12月31日)

川口博史

平成25年

1月1日(火) : 晴れ 元旦

2013年が始まった。穏やかな日差しの中で、今年がどんな1年になるのかを考えつつ朝から一杯。初詣はいつもの神社で大漁祈願。

1月16日(水) : 曇りのち晴れ 於/横浜ベイシェラトンホテル& Towers

第30回日本臨床皮膚科医会準備委員会

メインテーマは「日臨皮30年 皮膚科を楽しもう」に決定した。ロゴやポスターの準備も少しずつ始まっている。

1月17日(木) : 晴れのち曇り 於/ホテル横浜キャメロットジャパン

第8回神奈川フットケア研究会 (共催: マルホ株式会社)

「コンコーダンスに基いた静脈性下腿潰瘍のマネジメント ～なぜ、その創傷は治らないのか～」
藤沢市民病院医療支援部地域医療連携室 内藤亜由美

「フットケアと爪」

東皮フ科医院 東 禹彦

年始めの研究会はいつもフットケアから。これからはコンプライアンスではなくコンコーダンスの方が望ましいとのこと。東先生からは特にアクリル人工爪の話のわかりやすく解説していただいた。参加者医師73名、コメディ 137名、計210名とまたまた大盛況。小野田雅仁先生お疲れ様でした。

1月19日(土) : 晴れ 於/横浜ベイシェラトンホテル& Towers

常任幹事会

例会の準備は勿論、神皮編集、名簿作成など、新体制になってから会務も少しずつ動き始めた。第30回日臨皮も実行委員会がいよいよ発足する。特別講演は野村有子先生。

1月23日(水) : 曇り 於/横浜ベイシェラトンホテル& Towers

編集委員会

『神皮20号』の編集会議。今回も楽しい原稿が集まりそうである。表紙写真は力作とのこと楽しみである。

2月4日～9日(月～土) : 第20回感染症サーベイランス

2月6日(水) : 雨 於/横浜ベイシェラトンホテル& Towers

第30回日本臨床皮膚科医会班長会議

雪の天気予報の中、皆さんに参集していただき、各テーマの班長を含めた初めての会議。栗原誠一会頭の想いの詰まった企画がいよいよ具体化し始める。

2月9日(土) : 曇りのち晴れ 於/横浜ベイホテル東急

特別講演会 (共催: マルホ株式会社)

「乾癬治療におけるプラスα」 東京慈恵会医科大学附属柏病院皮膚科診療部長 福地 修
「患者が喜ぶ外用薬選択のワザ～シンプルに指導する外用療法～」

群馬大学大学院医学系研究科皮膚科学講師 安部正敏

お二人のわかりやすくなる話と拝聴した。外用薬の選択には鮎屋の接客を参考にするとのこと、早速翌日鮎屋に行ってみた。参加者97名。

2月27日（水）：雨のち曇り 於／新横浜プリンスホテル

健保委員会

3月3日（日）：曇り 於／関内新井ホール

第141回神奈川県皮膚科医会例会（共催：マルホ株式会社）

テーマ「ほんとは面白い皮膚真菌症」

ミニレクチャー「ウイルス性発疹症 最近の話題」 浅井皮膚科クリニック 浅井俊弥

「セロテープは真菌検査の強い味方」 揖斐厚生病院皮膚科部長 藤広満智子

「皮膚真菌症の診断—不易流行」 金沢医科大学皮膚科部門教授 望月 隆

真菌症のスペシャリストである黒澤傳枝幹事がチョイスした、真菌症のスペシャリストによる講演。皮膚科医にとってcommon diseaseである皮膚真菌症、とかく軽視されがちな疾患だが、専門家の話を聞いてみると、日々の診療の中で自分も真菌症を見逃していなかったか、少し心配になってきた。昔から感じていたことだが、真菌の専門家たちは皆さん、真菌は美しいとおっしゃる。今回もそうでした（笑）。参加者160名。また1回目の30回日臨皮総会の実行委員会も開かれた。

3月7日（木）：晴れ 於／横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ

第142回神奈川県皮膚科医会例会準備委員会（企画委員会）

第142回の準備は勿論、50周年記念会もそろそろ考えなければいけない時期になってきた。託児のシステムもいよいよ動き出しそうだ。気温が急に高くなり、スギ花粉の飛散で目や鼻が悲惨である。

3月13日（水）：曇り 於／横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ

小澤明アドバイザーに日臨皮30周年のプログラムや企画についてご相談。

われわれとは異なる視点からの、貴重なご意見をたくさん頂戴した。この日関東地方は、電車が運休するほどの強風に見舞われた。

3月16日（土）：晴れ 於／ホテルプラム横浜

第2回皮膚の健康委員会学術講演会

「診察中にレックリングハウゼン病を疑った際のムンテラは？～痒みに対するスキンケアと抗アレルギー剤の有効性について～」 さわだ皮ふ科 澤田俊一

日臨皮30周年での企画「皮膚の生涯チーム」の会合も含めて、活発な意見が出て企画の概略がみえてきた。これもまた楽しみである。

4月3日（水）：雨のち曇り 於／横浜国際ホテル

学術サーベイランス委員会

第30回日臨皮のS&Sの企画も含めての委員会。皮膚科診療の歴史、変遷についての企画も上がってきた。

4月6日・7日（土・日）：於／ウェスティンナゴヤキャッスル

第29回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会

大荒れの天気予報だったが、名古屋城の桜もなんとか散らずに待っていてくれ、皆で名古屋を楽しんできた。野村有子先生の「巻き爪用クリップを利用した巻き爪・陥入爪患者91名の治療経験」、高須博先生の「神奈川県皮膚科医会における皮膚感染症サーベイランスの結果報告」がまたまたポスター賞を受賞、おめでとうございます。さあ、次回は神奈川主催だ！

4月17日（水）：曇り 於／横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ

第30回日本臨床皮膚科医会実行委員会

各テーマの企画が具体化してきた。それぞれ時間配分を調整するのが大変！

4月20日（土）：雨 於／ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル

神奈川県皮膚科医会学術講演会（共催：田辺三菱製薬株式会社）

「皮膚バリア障害からみたアトピー性皮膚炎の治療戦略」

慶應義塾大学皮膚科講師 久保亮治

「アトピー性皮膚炎におけるストレスとその対応」 はしろクリニック院長 羽白 誠

久保先生の表皮を3次元的にとらえる技法を用いての角層のバリア機能の講演と、羽白先生の心身症適応障害としてとらえるアトピー性皮膚炎の病態、治療の講演。抗うつ薬、抗不安薬を積極的に用いられているが、使い慣れた羽白先生だからこそその技であろう。参考になったが、自分では使いこなせるかまだ自信がない。雨にもかかわらず大勢の参加があった。参加者87名。

4月24日（水）：雨のち曇り 於／横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ

会計監査

雨の中、金丸哲山監事と頬が痛々しい日下部芳志監事をお招きして会計監査、また貴重なご意見を頂戴した。だんだん厳しくなる財政の中、宮川俊一会計担当幹事と瀬尾志津江さんのご努力でなんとか決算予算がまとまった。これからもよろしくお願いします。

5月15日（水）：曇り 於／横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ

第30回日本臨床皮膚科医会総会アドバイザー会議

県内の主な大学の主任教授、菅原信先生においていただき、我々の企画にアドバイスをいただいた。実現するのが難しい企画は急いで練り直さなければ！ 各班長さん、がんばりましょう。

5月18日（土）：曇りのち晴れ 於／横浜ベイホテル東急

常任幹事会

宮川俊一先生の特別講演以下、会議自体は予定通り行われたが、その際松井潔幹事の御病気のことを知る。おりしも義兄の病気のことを伝え聞いた直後だったのでダブルでびっくりである。先生の1日も早い復帰をお祈りする。

5月23日（木）：曇りのち晴れ 於／横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ

編集委員会

節目の『神皮20号』がいよいよ発刊される。表紙はまたまた山田裕道幹事の力作で、70年代の横浜を思い出させるもの。若かりし時代が懐かしくなった。気温湿度が上がり、日中外出すると汗ばむ陽気になってきた。今夏も熱中症にご用心か。

5月25日（土）：曇り 於／横浜ベイホテル東急

第19回 Joy Derma Club

テーマ「布と皮膚～下着の基礎から製品まで」

「肌着でキレイをめざす」～接触皮膚炎を防ぐために～ 野村皮膚科医院院長 野村有子

「人間科学研究にもとづくものづくり～加齢による体型変化の実態と下着～」

ワコール人間科学研究所所長 篠崎彰大

担当幹事は高橋さなみ、菅千束両先生。女装して来たら聴講できるといわれたが……。参加者49名。

6月14日～16日（金～日）：於／パシフィコ横浜

第112回日本皮膚科学会総会

2011年、東日本大震災で流会した川島眞会頭の主催する総会。あいにくの雨模様だったが、

多数の参加者で会場はどこもいっぱいであった。個人的には興味があったテーマの講演会場が混み過ぎで入れず少々残念だったが、大物歌手や有名アナのサプライズもあり、さすが川島教授！という感じであった。

6月22日(土) :曇り 於/ホテル横浜キャメロットジャパン

第62回神奈川医真菌研究会

当日クラス会があり少ししか参加できなかったがいつも以上の参加者で大盛況だった。相原道子先生、事務局の生駒憲広先生、お疲れ様でした。参加者93名。

6月29日(土) :曇りのち晴れ 於/横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ

神奈川県皮膚科医会「初夏の勉強会」(共催:マルホ株式会社)

「臨床から見た帯状疱疹関連痛の管理と疼痛緩和へのアプローチ」

久留米大学医学部皮膚科 小野文武

「単純疱疹の抗ヘルペスウイルス薬の使い分け」

東京慈恵会医科大学葛飾医療センター皮膚科診療部長 本田まりこ

帯状疱疹は急性期の疼痛と慢性期の疼痛に分けて痛みの治療を行うこと、単純疱疹は無症候性のウイルス排出を念頭に置かなければならないこと、またその理論に基づいた内服療法の提案などの話を聴いた。他に講演会もあったが、大勢の方が出席してくれて充実した会となった。参加者99名。

7月3日(水) :曇り 於/新横浜プリンスホテル

健保委員会

7月7日(日) :晴れ 於/関内新井ホール

第142回神奈川県皮膚科医会例会(共催:アステラス製薬株式会社)

テーマ「見直そう乾癬の病態と治療」

ミニレクチャー「皮膚科領域におけるむずむず足症候群」

聖マリアンナ医科大学神経精神科准教授 長田賢一

「わかりやすい乾癬の病態生理」

東京慈恵会医科大学皮膚科教授 中川秀己

「患者に学び、患者と考える乾癬治療—生活指導から生物学的製剤導入まで」

医療法人廣仁会札幌皮膚科クリニック副院長 安部正敏

乾癬の病態メカニズムの解明は目覚ましいものがあり、どんどん新しいサイトカインネットワークを勉強しなくてはならない。また、生物学的製剤も新たに治験が進行しているようで、将来はより効果があり副作用の少ないものを使える時代が来るのかもしれない。安部先生はいつもの軽快な口上で、楽しく時間が過ぎてしまった。患者会との関わりの話などから、先生の臨床家としての人柄を垣間見ることができた。例会に先立ち、初めて仕切った通常総会も、皆様の協力のもと無事終わることができた。最後は鎌田英明会長の還暦のお祝いを日本酒「すず音」で乾杯!澤田俊一先生お疲れ様でした。例年より早い梅雨明けで、外出するのが嫌になるくらいの暑さの中、参加者136名。

7月10日(水) :晴れのち曇り 於/横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ

第143回神奈川県皮膚科医会例会準備会(企画委員会)

いよいよ第143回例会から託児室の用意ができることになった。また、特に今回、第142回例会前の幹事会では無断キャンセルならぬ無断出席者が多くて、座席、食事の用意が大変であったとのこと。経費削減の点からも幹事会の出欠席をしっかりと取らなければならないことが確認された。

7月25日(木) :曇り 於/横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ

第30回日本臨床皮膚科医会総会実行委員会

診療が終わらないであろうため今回は欠席。

- 9月11日(水) :曇り 於/ローズホテル横浜
臨床皮膚科懇話会 (イベント委員会)
今年のテーマは「毛」。今まで名司会者だった齊藤典充先生が、今度は演者として聴衆を引き付ける講演をしてくれることとなった。齊藤先生よろしく!
- 9月12日(木) :晴れ 於/ホテル横浜キャメロットジャパン
第22回在宅医療勉強会 (共催:興和創薬株式会社)
「褥瘡に関する情報提供」 ふくろ皮膚科クリニック 袋 秀平
「教科書では教えてくれない!? 明日から活かせる、褥瘡のトータルマネジメント」
さっぽろキズケア・アンチエイジング研究所 小浦場祥夫
仕事が終わらず袋先生の話は聞きそこなってしまったが、褥瘡のできるメカニズムを静的動的因子としてとらえる話であったとのこと。さっぽろキズケア・アンチエイジング研究所の小浦場先生の話は、わかりやすく新鮮であった。ズレ、滲出液を適切に処理することでポケットも切らないで治るとは目から鱗であった。今度はぜひアンチエイジングの話も聞いてみたいものだ。日中はまだ暑い朝少し涼しくなり秋らしくなってきた。参加者医師43名、コメディ 146名、合計189名。
- 10月5日(土) :雨 於/横浜国際ホテル
横浜東部小児皮膚フォーラム (皮膚の健康委員会)
「日常で診ている子供の食物アレルギーについて」 野村皮膚科医院院長 野村有子
「IVRに伴う放射線皮膚障害(皮膚潰瘍を含む)の診断と治療」
網島診療所 そう皮フ科院長 宋 寅傑
所用にて欠席であったが、特別講演は野村有子、宋 寅傑両先生。日臨皮総会のLOS班の意見交換も活発になされたとのこと。
- 10月19日(土) :曇りのち雨 於/横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ
常任幹事会
特別講演は井上奈津彦先生のアトピー性皮膚炎の話。第143回、第144回の例会準備のほか、いくつかの議案について審議した。今後各種委員会の運営の仕方が大幅に変わるかもしれない。うまく運営していく良い方策を探さなくては。
- 11月4日(月) :雨のち曇り 於/横浜情報文化センター情文ホール
皮膚の日記念イベント
齊藤典充先生の「この頃気になる!? 抜け毛の話」。それ以外にも皮膚の相談コーナー、企業展示すべてが盛況で、Q&Aコーナーも毛髪関連以外にもいろいろな質問が盛りだくさんで、市民にいい啓蒙活動ができたと思う。小林誠一郎委員長はじめ委員の皆さまお疲れ様でした。一般参加者162名、参加総数240名。
- 11月9日(土) :曇り 於/横浜ベイホテル東急
第20回Joy Derma Club記念大会
「感性を活かしたモノコトづくり」 信州大学繊維学部感性工学課程教授 上條正義
山川有子、河原由恵両先生の当番でマジックショーなども飛び出し、楽しく過ごしたとのこと。
- 11月13日(水) :晴れ 於/横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ
第30回日本臨床皮膚科医会総会準備委員会
各企画の具体的な演者、場所、時間の配分に四苦八苦。齊藤典充実行委員長の御苦労が目につかぶ。

11月27日（水）：曇りのち晴れ 於／横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ
健保委員会

第143回例会でのQ&Aについて相談したとのこと。

12月1日（日）：晴れ 於／関内新井ホール

第143回神奈川県皮膚科医会例会（共催：グラクソ・スミスクライン株式会社）

テーマ「よくわかる白斑・脱色素斑」

ミニレクチャー「アトピー性皮膚炎におけるスキンケア」

横浜市立大学附属市民総合医療センター皮膚科 蒲原 毅

「小児の白斑・白皮症：新たな病因論と鑑別診断」 近畿大学皮膚科准教授 大磯直毅

「尋常性白斑Q&A：新たな病因論と治療法」 大阪大学皮膚科教授 片山一朗

白斑のガイドライン作成にかかわっていた川上民裕先生の、熱い思いが詰まったテーマ、演者であった。白斑もよく勉強すると奥がすごく深いことが分かった。また、世間では化粧品による皮膚障害の話題が出ている真っ最中で、そのあたりの話も聞くことができ、まさにタイムリーなテーマとなった。白斑についてはまだまだたくさん勉強しなくては！参加者128名、初めて行った託児は10人の子どもたちをお預かりした。なかなか好評だったとのこと。

12月5日（木）：晴れ 於／横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ

第144回神奈川県皮膚科医会例会準備会（企画委員会）

初めて行った託児は思いのほか児が集まり、今後は場所の確保に苦労しそう。でも育児が忙しくて勉強したくても出席できなかった会員がいたこともわかったので、医会としてはそのような先生が気軽に参加できるような環境を提供できるように頑張らなければならない。

12月27日（金）：曇りのち雨

今日が当院の仕事納め。今年は残暑が厳しく、その後度重なる嵐とともにあっという間に気温が下がり、秋を感じる時間が短かった。でも学会その他で出かけた際には、紅葉、黄葉を楽しむこともできた。今年もいろいろな出来事があったが、みんなで相談、協力しながら、大過なく会務をこなすことができたと思う。来年は第30回日臨皮総会というイベントを控えているし、医会の舵取りもしっかりしなくてはならないと思う。さあ、年末年始の祝いの席で使える魚を釣ってこなくては！



学術委員会だより

高須 博

学術委員会の活動を報告します。

- ①皮膚感染症サーベイランス：平成15年8月より年2回（2月と7月の5日間）でサーベイランスを行ってきました。平成25年の2月で10年目（20回目）となりました。しかし、感染症の流行（風疹など）を捉えることが出来ない課題がありました。そこで、今までのサーベイランスは20回で一旦終了として新たに検討することとしました。詳細は検討中ではありますが、流行を把握できるようにしたいと考えております。
- ②名古屋で行われた第29回日臨皮総会においては、学術委員会から20回の皮膚感染症サーベイランスの集計として『神奈川県皮膚科医会における皮膚感染症サーベイランスの結果報告』というタイトルで報告しました。ポスター発表として皆様の投票により銅賞を頂きました。
- ③栗原誠一会頭の第30回日臨皮総会に学術委員会から30回にちなみ『神奈川県皮膚科医会員による30年間で治療が変化した疾患のアンケート調査』として演題をだし、会員の皆様に2回のアンケート調査をお願いしました。

今後とも会員の皆様には、学術委員会の事業に継続的な御理解と御協力を頂きますようよろしくお願い申し上げます。

【平成25年度の事業報告】

平成25年4月6日～7日、第29回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会にて『神奈川県皮膚科医会における皮膚感染症サーベイランスの結果報告』（神奈川県皮膚科医会）を発表。

Joy Derma Clubだより

菅 千束、河原由恵

●第19回Joy Derma Club

日 時：平成25年5月25日（土）

会 場：横浜ベイホテル東急（旧パンパシフィック横浜ベイホテル東急）

共 催：鳥居薬品株式会社

参加者：49名

テーマ：「布と皮膚 ～下着の基礎から製品まで～」

プログラム

1. 開会の挨拶 JDC会長 毛利 忍先生
2. 講演「肌着でキレイをめざす」～接触皮膚炎を防ぐために～ 野村皮膚科医院院長 野村有子先生

肌着によるトラブルをおこす患者さんの事例を提示していただき、素材や洗剤に注意することで改善すること、アレルキャッチャー ADの5本ゆび靴下を2週間使用して難治性の足白癬や足湿疹がよくなった例も紹介いただきました。この冬皮膚炎がめだっていたヒートテックは、通気性がないことなども教えていただきました。

3. 特別講演「人間科学研究にもとづくものづくり～加齢による体型変化の実態と下着～」
株式会社ワコール人間科学研究所所長 篠崎彰大先生

ワコールの商品開発のための人間科学研究所の所長であり、取締役執行役員の篠崎先生に特別に門外不出のお話をうかがうことができました。

研究所では、1965年から450名のモニターの方の150ヶ所のからだの計測を1年ごとに経時的に行ったデータを集積しており、4歳から18歳までの変化、妊娠出産による変化、加齢による変化を画像であざやかに提示していただきました。立位MRIによるバストとヒップの加齢による変化の観察から開発されたジャストフィットの下着は、様々な効用をもたらすことをお示しいただきました。

年齢を経ても体型変化が少ない方への綿密なヒアリングから若いときの体型を維持する秘訣は、

1. 活動的な日常生活をおくること
2. 規則正しい食生活をおくること
3. 自分の体にあった下着を着用すること
4. 歩幅を広くしっかり筋肉をつかって歩くこと
5. 体力づくりのためにスポーツを楽しくつづけていくこと
6. ボディの肌のケア

であるということでした。

最後に成長期の下着についての講習を行う「ツボミスクール」という取り組みもご紹介いただきました。

4. 情報交換会

篠崎先生への質問の輪がひろがり、京都に帰られる時間のギリギリまで、丁寧に答えていただきました。

(文責：菅 千束)

●第20回Joy Derma Club

日 時：平成25年11月9日(土)

会 場：横浜ベイホテル東急

共 催：ポーラファルマ株式会社

参加者：33名

プログラム

1. 開会の挨拶 JDC会長 毛利 忍先生
2. 特別講演 午後6時～7時

テーマ：「感性を活かしたモノコトづくり」

講 師：信州大学繊維学部感性工学課程教授 上條正義先生

座 長：野村皮膚科医院 野村有子先生

人と人とが対話しながらモノコトづくりをする共創によって、性能や精度のような物質的な価値ではなく、精神的な充実、満足感を感じる。これを我々は感性価値と呼び、感性価値を創る共創における対話を支援する技術を感性工学と呼ぶ。

共創による絵本制作事業における調査の結果、絵本制作のスタッフとして参加した方は、人との対話は疲労するが同時に活力を感じていた。自分の絵本を作りたいと希望して制作会に参加した方からは、制作会参加費より4倍以上の費用を支払っても良いという回答があり、対話して創り上げたプロセスに対して価値を見出していた。

人に触れる製品から健康に影響する刺激を受ける場合があり、それを定量的に把握する感性計測技術が必要とされている。タオルは洗濯を繰り返すとゴワゴワになり、不快に感じる。化粧用フェイスマスクを顔面に装着すると快適を感じる。生理反応を計測することによって接触快適感を評価する技術を開発している。

3. 情報交換会

JDCは第20回の講演会を迎えるにあたり、記念の会ということでいつもの情報交換会とは一味違った企画をしました。今後とも「顔の見える交流」が続けられるよう、参加された先生方全員に壇上より自己紹介をしていただきました。またプロのマジシャンによるマジックショーや増田智栄子先生のピアノ伴奏のもと全員参加で合唱するなど楽しいひと時をすごしました。

★合唱曲目：「未来予想図Ⅱ」「ハナミズキ」「花は咲く」 (文責：河原由恵)

委員会報告

在宅医療委員会だより

袋 秀平、小野田雅仁

●第22回神奈川県皮膚科医会在宅医療勉強会

日時：平成25年9月12日（木）午後7時～

会場：ホテル横浜キャメロットジャパン

参加者：189名

共催：興和創薬株式会社

講演テーマ並びに講師

一般講演：「褥瘡に関する情報提供」

講師：ふくろ皮膚科クリニック 袋 秀平

特別講演：「教科書では教えてくれない!? 明日から活かせる、褥瘡のトータルマネジメント」

講師：さっぽろキズケア・アンチエイジング研究所 小浦場祥夫

【一般公演】「褥瘡に関する情報提供」

ふくろ皮膚科クリニック 袋 秀平

①体位変換についての新しい考え

褥瘡ケアにおいては一般に2時間ごとの体位変換が推奨されてきた。第15回日本褥瘡学会学術集会において、大浦武彦日本褥瘡学会元理事長は、「体位変換間隔への革新一両刃の剣である人の手による体位変換」と題する講演をおこなった。

そもそも2時間ごとの体位変換が推奨されるにいたった経緯としては100年以上前の教科書に記載されたことがきっかけになっている。その後1977年（昭和52）に東京都老人総合研究所が著した『褥瘡一病態とケア

一』の中で、外国での動物実験を根拠にこの時間間隔でのケアが定着した。

日本褥瘡学会では2003年（平成15）に、画一的な2時間ごとの体位変換を計画するのではなく、他のリスクの有無などを考慮して個別の看護計画を立てることを推奨している。最近では2009年（平成21）のNPUAP/EPUAP合同ガイドラインで、体位変換の頻度は患者の組織耐久性や活動性、全身状態のレベル、皮膚の状態等によって決定するべきと述べられ、同年の日本の褥瘡予防・管理ガイドラインでも、体圧分散寝具の種類によって4時間までの体位変換間隔の延長を認めている。

大浦元理事長は他の外傷・創傷にはみられず褥瘡に特有な症状として、外力性のポケットや創内の肉芽形成などを列挙し、これらは動的外力が原因であると指摘した。動的外力とは身体移動やおむつ交換のようなケアの際に生じるもので、必要なケアのために褥瘡の治癒を阻害していたわけである。たとえば留置カテーテルが褥瘡治療に有効であるのは、尿が創面を汚染するのを防ぐだけではなく、おむつ交換を行わなくてすみ、動的外力を減らすことができるからという考えである。

今後も人的体位変換を継続する場合は、ポジショニング手袋、スライディングシートなどの道具を用い、摩擦やずれを減少させる努力をすること。人的体位変換をやめる場合は、自動体位変換マットレスやポジショニングピローを利用すること。これらの徹底により、有害な動的外力を減少させることが可能となる。

②eラーニングについて

日本褥瘡学会ではweb上で褥瘡についての学習ができるeラーニングの作成を進めている。2013年（平成25）9月現在、ポジショニングとスキンケア、局所治療、栄養の3コースが完成している。利用は褥瘡学会会員に限られ、HP上でログインすることによって学習が可能となる。

③各種セミナーについて

日本褥瘡学会では各種セミナーを開催しており、それらについて告示した。

【特別講演】「教科書では教えてくれない!? 明日から活かせる、褥瘡のトータルマネジメント」

さっぽろキズケア・アンチエイジング研究所 小浦場祥夫先生

●第8回神奈川フットケア研究会

日 時：平成25年1月17日（木） 午後7時～9時

会 場：ホテル横浜キャメロットジャパン5階「ジュビリーⅡ・Ⅲ」

参加者：210名

共 催：マルホ株式会社

特別講演Ⅰ

テーマ：「コンコダンスに基いた静脈性下腿潰瘍のマネジメント ～なぜ、その創傷は治らないのか～」

講 師：藤沢市民病院医療支援部地域医療連携室 内藤亜由美

特別講演Ⅱ

テーマ：「フットケアと爪」

講 師：東皮フ科医院 東 禹彦

本研究会は、「足の疾患はまずは皮膚科医が診る、必要に応じて他科へ依頼する」というコンセプトを、皮膚科医も医療従事者も患者さんも共有すべきという考えから、2006年（平成18）に立ち上げられました。第8回を迎えた今回は、平日の夜にも関わらず、210名の方にご参加いただき、過去最大の参加者数を更新しました。

今回は、藤沢市民病院医療支援部地域医療連携室の内藤亜由美先生と、東皮フ科医院の東禹彦先生をお招きしました。

内藤先生は、厚労省看護師特定行為・業務試行事業対象看護師として、当初日本で5人だけ選ばれた看護師の1人です。常に現場に即した視線を持ち、難治性皮膚潰瘍の治療サポートを行ってくれています。局所治療

を有効に行うための、弾性包帯や弾性ストッキングについて、最新の知見を踏まえてお話しして下さいました。東先生は、皮膚科医であれば知らない人はいないほどの、爪の診断・治療についてご高名な先生です。数多くのご経験例を踏まえて、有益で、かつ面白いお話をして下さいました。

特別講演 I

「コンコーダンスに基いた静脈性下腿潰瘍のマネジメント ～なぜ、その創傷は治らないのか～」

藤沢市民病院医療支援部地域医療連携室 内藤亜由美先生

静脈性下腿潰瘍とは、下肢静脈血うっ滞による慢性的な静脈性高血圧が原因で生じる潰瘍である。難治性であることと、治癒後の再発率が高いことが特徴であり、患者の就業など社会的・経済的影響や精神面に与える影響が大きいことが諸外国の報告から明らかになっている。

静脈性下腿潰瘍の管理はいわば、二足歩行を行う人類と重力とのジレンマである。ベッド上で安静にしていれば潰瘍は治癒するが、QOLは損なわれる。患者の生活を支援しその人らしく生きることを支える看護師は、患者のQOLを担保にしながら早期治癒を目標にしていかなければならない。通常の日常生活を送りながら、静脈血うっ滞を軽減させる方法に圧迫療法がある。圧迫療法は静脈不全の原因となる静脈高血圧を改善させるもともと基本的な治療法であり、他の治療法が適応される患者にも必ず基礎の治療法として行われる。病因が一次性下肢静脈瘤であるか深部静脈血栓症後遺症であるかにより圧迫圧が異なる。一次性下肢静脈瘤の場合は足関節圧で20～30mmHg、深部静脈血栓症では30～40mmHg以上の圧が推奨されている。圧迫方法としては弾性包帯、弾性ストッキング、間歇的空気圧迫装置がある。圧迫療法を行う場合には、ABI検査などで末梢動脈疾患の有無を必ず確認する。圧迫療法は再発予防にも効果がある。欧米には多層式の包帯が多数存在し、効果を比較した非盲検RCTが行われている。一方、我が国で入手可能な弾性包帯は限られており、正しい巻き方には、トレーニングが必要である。

また、従来教科書には静脈性下腿潰瘍は痛みが強くないと記載されてあったが、患者にインタビューを行ったところ、下肢の浮腫がつづいている間は耐えがたい痛みを伴う創傷であるということが明らかになった。局所ケアは痛みを配慮したドレッシング材や処置方法の選択が重要である。

静脈性下腿潰瘍は難治性であり再発率も高いため、慢性疾患を有する患者について理解しセルフケアが継続できるようサポートを行っていく必要がある。静脈性下腿潰瘍の管理においては、セルフケアが継続できるように、患者—医療者間のパートナーシップを重要視したコンコーダンスの概念に基づいたサポートを行っていくことが重要である。

特別講演 II

「フットケアと爪」

東皮フ科医院 東 禹彦先生

爪の変形は足に種々の障害を生じ、日常生活に影響を及ぼし、QOLの低下を招く。したがって、フットケアの一つとして爪の問題は極めて重要である。

1. 爪の構造と爪甲の役割について簡単に説明。
2. 履き物（靴）と足の関係により生じる爪の変形とその対処法について述べる。
3. 趾爪の変形の原因について説明し、その対処法について述べる。
 - 1) 陥入爪は深爪が原因である。多くの治療法があるが、理に適った治療法はアクリル人工爪療法と考えている。爪甲の側縁を生えなくする手術療法（フェノール法を含む）は禁忌と考えている。
 - 2) 巻き爪は先端の窮屈な靴によるものと高齢者では病気などのために歩行が不十分なために生じる場合がある。
 - 3) 爪甲鉤彎症は爪甲が趾先端を押し下げることが出来なくなるために生じる。爪甲の脱落や爪甲を医師により除去されるなどの他に、外傷や爪白癬も原因となる。
 - 4) 爪白癬は爪甲の混濁と肥厚を主とする病気である。積極的に抗真菌薬の内服で治療するのが良いと考え

ている。鑑別疾患の一つに爪疥癬がある。爪はヒゼンダニの貯蔵庫になる。
5) 皮膚疾患による爪の変形もある。注意すべき悪性腫瘍もある。

委員会報告

イベント委員会だより

小林誠一郎

●2013年度「皮膚の日」行事報告

11月12日は、いい皮膚の日として記念日協会に登録され、医師を中心に皮膚に関する啓蒙活動が続けております。例年同様、11月4日（月）に横浜情報文化センター情文ホールで、イベントを開催しました。

日時：平成25年11月4日（月） 午後2時～3時半

会場：横浜情報文化センター情文ホール

プログラム

開会のご挨拶：神奈川県皮膚科医会会長 鎌田英明先生

テーマ：「この頃気になる!? 抜け毛の話」

講師：北里大学医学部皮膚科学教室 齊藤典充先生

髪の毛の発生と一生についてから病気に関して、さらにシャンプーなどのヘアケアについてまで御講演いただきました。

皮膚のトラブルQ&Aコーナー

イベント応募時に書いていただいた「皮膚科医への質問」について、司会の小林が以下の先生方に質問をして、答えていただきました。

担当の先生方：川上民裕先生、高須博先生、宮川俊一先生、河原由恵先生

閉会のご挨拶：神奈川県皮膚科医会幹事長 川口博史先生

製品展示・紹介コーナーでの見学会

かつらメーカーも参加して、ホワイエでは展示されているヘアケア・スキンケア製品の商品説明やサンプリングに大勢のお客様が熱心に説明を聞き大盛況でした。無料肌年齢コーナーは体験者が37人と人気でした。

「お肌のトラブル相談コーナー」は2部構成で行いました。

相談医の先生方：川上民裕先生、澤田俊一先生、蒲原 毅先生、畑 康樹先生、井上奈津彦先生、袋 秀平先生、浅井俊弥先生、宮川俊一先生、足立真先生、毛利 忍先生、渡辺知雄先生

参加者数

来場者数：240名 相談者数：30名

協賛展示・おみやげサンプリングメーカー

アクセヌ株式会社、大島椿株式会社、ダイワボウノイ株式会社、常盤薬品工業株式会社、株式会社ポーラファルマ、マーベラスビューティージャパン株式会社、マルホ株式会社、日本ロレアル株式会社、ミヨシ石鹼株式会社

賛助・労務提供メーカー

エーザイ株式会社、MSD株式会社、大塚製薬株式会社、科研製薬株式会社、ガルデルマ株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、グラファ ラボラトリーズ株式会社、佐藤製薬株式会社、協和発酵キリン株式会社、サノフィ・アベンティス株式会社、塩野義製薬株式会社、大正富山医薬品株式会社、第一三共株式会社、大日本住友製薬株式会社、大鵬薬品工業株式会社、田辺三菱製薬株式会社、中外製薬株式会社、株式会社ツムラ、鳥居薬品株式会社、日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、ノバルティスファーマ株式会社、バイエル薬品インテンドス事業部、藤永製薬株式会社、株式会社ポーラファルマ、マルホ株式会社、ヤンセンファーマ株式会社、ロート製薬株式会社

イベント案内掲載

神奈川新聞

ここ数年は横浜情報文化センター情文ホールにて行っております。11月3日は文化の日で祝日です。昨年は学会の都合上、11月4日に行いました。昨年も委員会メンバーと御協力いただける先生方、さらに労務提供の方々のお力で、盛況となることができました。ありがとうございました。次年度はまた、11月3日に昨年と同じ情文ホールにて行う予定です。できるだけ多くの先生方にもご参加いただけますよう、よろしく願い申し上げます。

委員会報告

皮膚の健康委員会だより

野村有子

●第2回横浜東部小児皮膚フォーラム

日時：平成25年10月5日（土）午後6時15分～

場所：横浜国際ホテル10階「蘭の間」

共催：横浜東部小児皮膚フォーラム、マルホ株式会社

参加者：21名

プログラム

座長：澤田俊一

製品関連情報：マルホ株式会社

【特別講演1】 テーマ：「日常で診ている子供の食物アレルギーについて」

講師：野村皮膚科医院院長 野村有子

食物アレルギーとは、食物を摂取することにより何らかの健康障害が引き起こされる症候群のことをいいます。

食物アレルギーを疑う皮膚の症状は、生後2、3ヶ月～顔（特に頬や口のまわり）や頭より始まり、ジクジクとした黄褐色の痂皮が付着します。4ヶ月過ぎになると、乾燥を伴った湿疹が四肢に散在し、耳のまわりが切れたりじくじくしたり首、肘やひざの内側、手首、足首が赤くなったりただれたりすることが多くなります。1歳を超えると、さらにかゆみが強く、広い範囲に症状が生じてきます。食物アレルギーを疑った場合、採血やブリックテスト・スクラッチテストなどの検査で原因の食物を特定し、症状を悪化させている食物を除去します。皮膚症状が落ち着いてきたら、少しずつ与えていきます。牛乳アレルギーの場合、まずアレルギーをなくした加水分解した調整粉乳（森永MA-1、明治エピトレス、雪印ペプディエットなど）を使用し、徐々に焼き菓子や料理のつなぎ→ホワイトシチュー→チーズ・バター→ヨーグルト→温めた牛乳→冷たい牛乳の順に与えていきます。卵アレルギーの場合、1歳まで除去し、その後卵入り焼き菓子（卵ボーロ）→ほかの卵入り加工食品→完全に火が通った卵料理→かたゆで卵の黄身→かたゆで卵の卵白→スクランブルエッグや半熟卵→生卵の順に徐々に与えていきます。

平成22年3月11日生の男児の症例を報告します。平成22年5月28日、3日前より急に全身がかさつきとかゆみが生じ赤みを伴ったため初診しました。両親にアトピー性皮膚炎があり、母乳のみです。フェナゾール軟膏とZS外用にて6月中旬には改善。7月に入り体にかゆみと湿疹が再発したため、8月24日スクラッチテストを行いました。卵白（3+）小麦（2+）牛乳・粉ミルク・米（-）でした。卵と小麦除去後、症状の改善を認め、徐々に負荷を行い、平成23年6月パスタ週3日OK、12月半熟卵OK、平成25年5月ジェラル小麦2：小麦1でOK、9月うどんとビスコ1個OKとなりました。IgEはH23.3.15→H24.5.23→H25.4.9採血で1,145→428→250と変化しました。

当院では、チャリオタワー4階に皮膚科のカフェをオープンし、アレルギー対応の食材を提供しています。皮膚科医も積極的に食物アレルギーに対応し、皮膚症状の改善に一役買ってほしいと思います。

【特別講演2】 テーマ：「IVRに伴う放射線皮膚障害（皮膚潰瘍を含む）の診断と治療」

講師：綱島診療所 そう皮フ科院長 宋寅傑

IVR（Interventional Radiology）はX線にて透視を行いながら血管その他の管腔にカテーテルを挿入して検査や治療を行う技術で、1980年代以降に発達し、それに伴って1990年代後半からIVRに伴う過量なX線照射による放射線皮膚障害の症例が報告され始めた。その約8割が虚血性心疾患の冠動脈IVRで生じ、その他、不整脈のアブレーション、ペースメーカー装着術、肝細胞癌のTAEなどでも発症した症例がある。演者はこれまでにこうした症例を17例経験したが、今回そのうちの代表的な症例6例を供覧し、本症の特徴と対策等について概説した。

本症は臨床的には中背部～上背部右側、右側胸部、左肩甲部などに生ずる境界明瞭な四角形ないし卵円形の病変で、大きさは手拳大程度であり、IVR施行後の時期によって、紅斑、落屑、びらん、皮膚萎縮、硬結、皮膚潰瘍などの多彩な症状を呈する。皮膚潰瘍は時に難治性となり治療に苦慮する場合もある。糖尿病などの合併により、本症発症のリスクが増す。また、小児での報告例はほとんど無く、海外でごく少数の報告が散見されるのみである。本症は経験があれば比較的容易に診断できるが、初めて遭遇した場合には、固定薬疹や接触皮膚炎、斑状強皮症などと誤診することもある。近年本症発症防止のための優れたガイドラインが作成され、その新たな発症は著明に減少したが、現在も皮膚科医がこのような症例に遭遇する可能性は無いわけではなく、皮膚科医には本症に対する正確な知識が必要である。また、非常に稀ではあるが、本症発症部位から悪性腫瘍を生じた症例があり、今後この点に関しても注意深い観察が必要である。

横浜東部小児皮膚フォーラムは、無事第2回を終えることができました。今回は、宋先生より、皮膚科医が

見逃してはならない疾患の供覧があり、とても勉強になりました。

なお、当分この形式で、フォーラムを行うことが決まりました。演者は、基本的には皮膚の健康委員会メンバーで担当しますが、講演が可能な先生に、負担があまりないように行うことが確認されました。また、開催は、木曜日と土曜日で交互に行うことになりました。

今回は、平成26年9月25日（木）で、講演は水野尚先生の予定です。



委員会報告

企画委員会だより

畑 康樹

企画委員会は例会の翌週水曜日か木曜日に9名の委員と会長・副会長・幹事長・副幹事長の5名、更に決定している当番幹事数名が集まって、終わった例会の反省と次回以降の例会を如何に有意義なものにするかを話し合っています。

さて、第143回の例会からいよいよ託児室の用意が始まりました。第143回は4家族で10名、第144回は7名の利用がありました。大きなトラブルもなく、お子様たちをお預かり出来たことにほっとしています。この託児室の用意の意図はお子様を抱える世代の若い先生方に、明日からの診療に役立つ、例会の有意義なお話を聞いてもらいたい、それに尽きます。私自身、若い頃に講演会に足を運んだのかというと他の他愛ない用事に出かけるか、出ても居眠りしたりなど、決して褒められたものではなかったことは否定しません。しかし現在、例会の講演を聞くたびに会場の周囲を見渡して、もっと若い先生方が聴いてくれたらなあと残念でなりません。例会は年にたったの3回です。若い世代の皆様、是非会場に足を運んで企画委員会で練りに練った講演を聴いてください。決して行って損をしたとは思わせません。その心意気で企画委員会は行われています。

今年度は第145回（平成26年7月6日）が「汗」（当番幹事：山川有子先生）、第146回（平成26年12月7日）が「毛髪」（当番幹事：齊藤典充先生）、第147回（平成27年3月1日）が「金属アレルギー」（当番幹事：矢口厚先生）をそれぞれテーマにして開催を予定しています。どうぞご期待ください。

健保委員会だより

井上奈津彦

平成25年度に健保委員会は下記の活動を行いました。

【委員会】

・平成25年度 第1回健保委員会

日 時：平成25年7月3日（水）

テーマ：①健保Q&Aの回答の検討

②審査上の問題点に関して

・平成25年度 第2回健保委員会

日 時：平成25年11月27日（水）

テーマ：①健保Q&Aの回答の検討

②審査上の問題点に関して

・平成25年度 第3回健保委員会

日 時：平成26年2月26日（水）

テーマ：①健保Q&Aの回答の検討

②審査上の問題点に関して

【改定説明会】

平成26年度診療報酬改定に関する説明会は開催しなかった。

広報・編集委員会だより

河原由恵

本年も無事『神皮』21号を先生方のお手許に届けることができほっとしています。

今号から委員の先生のご提案で、「私の趣味」のコーナーを「私事雑記帳」と改めました。趣味はもちろんのこと、趣味というほどではないけれど紹介したい活動や好きなもの、旅先での印象記なども含め、幅広くご投稿いただけるコーナーになりました。より多くの先生方の素顔を知って親睦を深める一助になれば幸いです。

また、「私のおすすめ」のコーナーも新設されました。会員の皆様にぜひ知ってもらいたい本・お店・施設・(スマホ)アプリなどの情報をお待ちしております。

【平成25年度の活動報告】

日 時：平成25年 5月23日 (木)

『神皮20号』第2回編集委員会

日 時：平成26年 1月23日 (木)

『神皮21号』第1回編集委員会

HPについては今までどおり浅井俊弥副会長が中心になって管理されています。

